

刊夕六廿月五



定価 一部全式紙 金五拾銭 郵費五拾銭
廣告料 五拾二文字 一行 金五拾銭
日曜 祭日の翌日 休刊
発行所 常磐毎日新聞社
印刷所 常磐毎日新聞印刷株式会社

自性天真佛

真 繼 雲 山

あれは悪人だ、これは善人だと他人のことを批判するが仔細に分折してみると善の部分の少ないのが悪で悪の部分の少ないのが善人といふてゐる比較上の話である。

泥棒は悪人に相違ないにしても、人殺しに比して善人でないわけにはゆかず。俺は監獄へ行つたこともないし、良心に恥づるやうな疚しいことをした覚えはないと善人顔する人も、自分以下の貧乏人が街頭に餓えてゐるのに、自己の全財産を興へし仕舞うだけの慈悲心なくば、絶対の善人とは言はれぬ。

口先で何ほど旨い講釈をして、行として慈悲の實が伴はねば寧ろ美聲の畜音器に劣るであらう。

もと／＼人間に、絶対的の善人、絶対的の悪人といふものはなく分量の多少を比較して善ともいひ、悪ともいふてゐるのである。是れ臺家の所談に、一心十界一念三千の説ある所以であつて妄心慾念なくば森羅萬象一切は固より真如の體に外ならぬが、心あるによりて、その轉じゆく果體が象生ともなり佛ともなる。一

念に三千の相を具するといはれる以上、善となり悪となるくらゐはお茶の子である。

人間の性は素と無記といふて自性なく、その本體はたとへば鏡の如きもので、塵の積つたのを悪といひ煩悩といふ。これを北宗禪の祖神秀は

身は是れ菩提樹、心は明鏡臺の如し、時々拂拭に勤めて度埃をして惹かしむる勿れ

といふた。塵を拂へば佛と成るといふのは迹門の見方であり、六祖慧能はこれに對して、

菩提もと樹にあらず、明鏡また臺にあらず、本來無一物、何の處にか塵埃を若かん

出すかといふに、それは因縁によるので、一切の因縁生たる所以。煩惱強威な男は大悪黨といふことになり悪の分量少なきが小悪人である。然らばその煩惱を綺麗サツパリと無くして仕舞へばよいではないかといふ無く成れば、ナルほど善人には相違なきも、煩惱とは慾であり、生の欲求なくば生きてゆけぬし、生きる必要もない。生きるといふは則ち人間の本性であり、煩惱をそのまゝ菩提に活用するが佛道の妙趣にしてこれを菩薩といふ。

正宗の名刀それ自體は善でもなく悪でもなく名刀の本性そのまゝに外ならぬもその活用如何によつて忠臣ともなり、奸賊ともなる。

生存の要求は人間の本性であるゆゑ素を無記といふべきも、その本性の活用が我利々々主義に墮すれば畜生の仲間に入り、無我に住して他のために生き得ば佛果に上る。永嘉大師すなはち證道歌に

無明の實性即佛性、幻化の空身即法身、法身を覺了すれば無い物、本源の自性天真佛

と仰せらる。自性の天真佛たる貴重さに目覺めるときそこに人生の價値に發見される。

五月人形陳列會

◎非常時日本心意氣 尙武人形

◎品と値で常に祝品界をリードするフクダヤの名作品を御覽下さい。

- 御座敷飾セット 六圓ヨリ百五十圓迄
- 武者人形 一圓ヨリ三十圓迄
- 金太郎人形 五十錢ヨリ十八圓迄
- 五巾外のぼり 十圓ヨリ四十五圓迄
- 大鯉のぼり 二圓ヨリ四十八圓迄
- 二丁目の フクダヤ

吉田眼科病院

平針屋町、電話六八八番

度量衡

- モノサシ 体温器
- マス 寒暖計
- ハカリ

秤ノ取緒。垂糸。修繕致シマス

関内薬局

電話四〇番

撰當

五月節句の御祝品も安く良いので!!!

- 御座敷飾セット
- 武者人形
- 金太郎人形
- 外のぼり
- 布
- 無

スガノヤ提灯店

電話九五

平町會議員候補 關内正一君を推薦す

推薦者 平町二丁目

- 鈴木 堅助
- 田卷 酒之助
- 三井 文吉
- 石川 友次郎
- 丹野 榮三郎
- 關内 慶次郎
- 坂田 藤助
- 長瀬 延太郎
- 里見 金太郎
- 責任者 平町二丁目十三番地 丹野榮三郎

來る三十日執行せらるべき町會議員選舉に際し磐陽野球界の恩人吉田金作氏には舊城跡、八幡小路兩區民の熱誠なる推薦により遂鹿戰場に出馬決意致され候

磐陽野球後援會有志

- 阿部 政右衛門
- 新田 目春
- 柴田 友次郎
- 石川 友次郎
- 井坂 久吉
- 熊坂 謙次郎
- 高木 忠三郎
- 外幹 事一郎
- 責任者 福島縣平町長橋町七 高木忠三郎

死亡、轉出既に三百

有権者四千に達せぬ?

正確な数字は明二十七日

正午頃迄に判明

期日切迫と共に血みどろな激戦が展開されてる平町議戦も愈々あまるところ後三日に迫つたが最後の五分間を目がけてよく奮闘しゴールに入る三十の戦士は果して誰れ誰れである……? 町當局では昨二十五日より吏員が數班に別れ各有権者を訪問の上それら首實験し投票場入場券を配布して

おるが二十六日正午迄には死亡或は他町轉出により投票失格者が約三百を數へた明二十七日正午に至れば正確なる有権者數が判明するがおよそ失格者は四百名に上る見込みであるから實際の有権者は或は四千名に達しないのではないかと見られておる

九十五票が

當落を左右

實際投票數から見た

各候補者の平均得票

別項平町に於ける正確なる有権者數は明二十七日には判明するが假りに名簿登載數四千三百四十一名の中死亡或は他町轉出によつて三百四十一名が失格するとすれば三十七名の候補者は四千の票を争ふ事になる譯である従つて四千を三十七で割れば一人平均の得票に百十八票強でこれだけを得るにあらざれば當選圈内に入る事は困難となるのであるが然しその中棄権或は無

日曜も休まず

警女猛練習

必勝を期す體育大會

警城高等女學校に於ける本年度各競技部選手候補者は既報の如くであるが愈々

教諭コーチの下に猛練習を行ふと

平商のコーチ

鳥選手來平遅れる

平商業學校野球部にては警中との對抗戦を前に之に備へる爲め元法政大學名外野手鳥秀之助氏を迎へコーチを受ける可く交渉中であつたが本日目の處都合悪しき旨の通知に接したので止むなく來月上旬頃コーチを受ける事にしたと

非常時に處する

縣民の覺悟

各家庭に印刷配布

郡下小學校長會で協議

既報石城郡下小學校長會は來る二十九日午前十時より平第一小學校に於て開かれるが各校より提出されたる協議題及び談話題並に打合せ事項は左の如くである

△協議題

- 一、現下の情勢に鑑み教育確保の良案如何
- 二、郷土室施設及之れが活用の良案如何
- 三、國際聯盟離脱に關する大詔の御趣旨徹底方案如何
- 四、本縣に於て頒布せる『聯盟脱退と國民の覺悟』中『非常時に處する縣民の覺悟』を共同印刷するの件
- 五、新聞雜誌等に掲出の御尊影取扱方に關する件

田浦及び夏井川畔に於ける海岸工事の材料運搬に使用

すべく燒玉式六馬力發動機船一臺を購入したと

宵越し物は食べるナ

市内各校のチブス豫防注意

平町各小學校にては毎年梅雨期より夏にかけてチブスが流行するので左の如き指示をなし全校兒童に注意を促す事になつたと

- 一、食事前必ず手を洗ふ事
- 一、水を飲む時は一旦煮沸したものか又は水道の外生水に注意する事
- 一、漬物の一夜漬は食べぬ事
- 一、蠅の驅除を行ふ事蠅の附いた食物は絶対に食べぬ事

- 一、チブス患者の家又は隔離病舎に猥りに訪問せぬ事
- 一、チブスが近所や自分の家に出た場合は直ちに豫防注射を受ける事
- 一、よひごしの食べ物は食べぬ事
- 一、生のカキや貝類を食へぬ事
- 一、時々手や指をアルコールで拭く事
- 一、平常より衣類蒲團の日光消毒を屢々行ふ事

東部商業教育研究會

聯合商業教育研究會

既報本縣聯合商業教育研究會は昨日午前九時より平商業學校に於て開き今後の方針及び研究題目に就いて協議したが出席者は十五名にて協議事項は左の如くである

△今後の方針

- 一、濱三郡の協議會は年一回開く事
- 一、各郡の協議會は毎學期開く事
- △研究題目
- 一、小學校國語讀本中の商業教材を系統的に研究する事

縣下高女校

國語研究會へ

警女淡路教諭出席

警城高等女學校にては來る二十九日福島高等女學校に於て開かれる縣下高等女學校國語研究會に淡路教諭を出席せしむるが同校より提出題は左の如くである

- △協議題
- 一、國語科の教化的價值を一層有効ならしむるため上級學年の時間數を増加するの件

宗正らひた

美味! 芳醇!

山崎合名會社 電話一〇番

△談話題
一、方言訛語の矯正について適切な方法承りたし
一、教科書以外の讀物の狀況承りたし

石井君世界館に

平映畫說明界の第一人者として知られてゐる石井孝氏は此の程永らく勤めてゐた平館主松田氏の了解を得て昨晩より世界館に姿を表したが相變らず氏獨特の説明をなし觀客の人氣を博してゐる

平町人事

回死 亡
△二丁目八 當時石城郡内郷村大字宮字代七二 佐藤金作(四〇)

丸太棒で仲間の頭を割る

被害者は生命危篤

小名濱で漁夫の亂闘

石城郡小名濱町古港七四飲食店大倉屋田邊ト(三)方で去る廿四日午後十二時頃迄飲酒した宮城縣鹿郡渡波町新町居住者丸乗組機關手佐藤萬兵衛(三)は同僚の細川松次郎、阿部吉兵衛、武田政次、雪永喜四郎等と共に同店前路上に出た際通り合した同僚宮城縣石巻町

生れ千葉次郎(三)と佐藤は前日機械手入の事から口論した事をブり返し路上で再び口論を初め遂に大格闘となつたが佐藤は路上にあつた長さ二尺餘の松丸太を振つて千葉の前額部を強打し全治二ヶ月の重傷を負はしたので關係者全部を檢舉して目下取調中である

自動車に轢かる

幼子の獨り遊ばせは危険

石城郡湯本町字三函居住石川周平二男政男(三)は昨廿五日午後五時頃自宅前道路で遊戯中同所をパツクして來た茨城縣多賀郡分村自動車營業者大久保猪太郎方運轉手増子義雄(三)の運轉するトラックに轢倒され頭部に全治二週間の傷を負つた

白米専門に

四縣を荒す

増太郎餘罪續々 既報去る十五日石城郡飯野村字上荒川佐藤丑藏方で白

農業實務 石城郡農青年協議 業實務青年協議會は來月五日午前九時より平窪小學校に開催縣の末原學務部長、長瀬教育

階級別滞納状態

平稅務所で調査

平稅務署では各種税金滞納が益々増加する一方なので是が防止策を樹てる事となり近く税額階級別滞納状態を調査し階級別の滞納原因を調査すべく左の四項に亘る

- 一、農村漁村の不況によるもの
- 一、凶作不漁等其の他の災害によるもの
- 一、故意又は怠慢によるもの
- 一、細別調査をなした上萬全の防止策を進めて居るが一般から多大の興味をかけられて居る

口ハ呑みの揚句

廊下鳶を極め込む

石城郡好間村字町田飲食店大和屋事福井重太方へ去る廿四日午後二時頃立寄つた村字小館居住山村敷一所有のレンコート一着をも窃取逃走したと

平署で怪青年の行方搜索

して居た間に行衛を晦して了つた揚句店先に有つた同村字小館居住山村敷一所有のレンコート一着をも窃取逃走したと

明日のラジオ 廿七日 今夜は北西の風晴 明日は北東の風晴 雲半す

今晚の部 後六、〇〇 子供の時間 お話と作文朗讀 作文朗讀「滿蒙軍事博覽會を見て」仙臺市二番丁小學校 五年山口秀雄外 お話 河北新報社員刈田仁 後六、〇〇 子供の時間 獨唱 能代高等女學校生徒伴奏品川三郎 後六、二五 講演

明日の部 前八、〇〇 獨唱 佐藤春代 ビアノ伴奏佐藤益喜 後八、三〇 歌舞伎劇 片岡我童一座 後九、三〇 時報 ニュース 氣象通報 番組豫告 前六、三〇 基礎ドイツ語 講座(二〇)橋本忠夫 前九、二〇 料理献立「筍と若布の白酒和合」河合

拾松 前一〇、三〇 家庭講座 「動物愛護デー」鈴木文史郎 後一〇、〇五 連續講談「森の石松」終席神田露山 後二、〇〇 家庭大學講座 「維新の大業と婦人の力」(九)維新史料編纂官藤井甚太郎 後二、二〇 野球試合實況 東京大學野球聯盟リーグ 戦(明大對帝大)明治神宮 外苑球場より中継 後六、〇〇 子供の時間 お話「海軍記念日」海軍大佐佐武富邦茂

後六、二五 ことばの講座 「ことばの正しい読み方話し方」(四)神保格 後七、三〇 海軍協會主 「催海軍記念日の夕實況」日比谷公會堂より中継 (挨拶)海軍協會東京府支部長東京府知事香取昌康 (挨拶)海軍協會々々長内閣總理大臣子爵齋藤實(講演)徳富猪一郎(琵琶)東郷大將 高峰筑風(吹奏樂)海軍々々樂隊 指揮樂長内藤清五(閉會の辭)海軍協會副會長有吉忠一(君ヶ代)奏樂海軍々々樂隊(萬歳三唱)

産子組合 第一區 議員選舉 五名當選 石城郡産馬組合第一區總代會議員選舉は去る廿三日午前九時より田人種馬所及び

繭價高値の聲に

養蠶手傳賃金値上

匡救入夫の賃金と同じ

平蠶業取締所管内に於ける春蠶は郡南方面の三令眠中で遅くも一令を越へて居るが天候の回復に依つて養蠶桑葉共發育順調に進んで居る處へ本年の糸價は四十掛下らぬと見越されて居るので各農家では極力掃立枚数の擴張を計る向が多いので養蠶手傳人の賃金も昨年より二割方高く男一日六十錢、女五十錢を前後して匡救入夫の賃金と大差ない有様である

裁判所だより

- △石城郡赤井村大字赤井字大倉百四十三番地佐藤金彌(三)及び同村字窪田七十三番地鈴木隆衛(三)の兩名は去る二十日傷害罪として罰
- △女中 二十以下 尋卒 給料面談(平町某)
- △自動車助手 十八才 尋卒 仕着小遣(平町某)
- △紙箱見習工 十六才 尋卒 給料面談(平町某)
- △農夫 四十五才 委細面談(好間村某)
- △菓子製造見習 二十一才 高卒 給料面談(内郷村某)
- △商店配達 三十七才 尋卒 給料面談(平町某)
- △女中 二十八才 尋卒 給料面談(内郷村某)

平職業紹介所報告

金二十圓宛に 石城郡小名濱町字竹町大森拾吉(三)は昨日横領詐欺罪として懲役六ヶ月に各平區裁判所に於て言渡されたが本日いづれも不服として控訴の申立をなした

幕末剣士

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

上田馬之助

第三百四十八號

三人連れの酔漢

二人連れの職人は武士に
吸物碗を突付られて

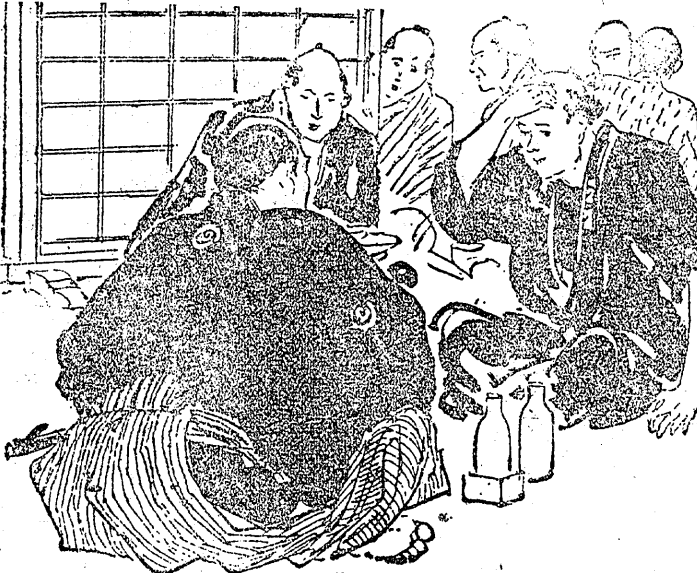
○『旦那そんな大きな器で
は飲めません、それに
お盆のやり取りは堅くお断り申
候とあれに書いて張り出し
てございます、どうぞ御勤
を辨願ひます』

甲『何んだと献酌を禁じて
あると、何處にそんなもの
が書いてある、ナール程先
方の柱に貼り付けてあるな
しかし之は天下の掟である
まい、此の松田で出した物
だ、しからば此の掟を破れ
ばとて科料に處せられる事
もなく、また牢に入れられ
ることもあるまい、一体何
んでこんな物を貼り出して
居いたか』

職『盆の遣り取りをします
とね馴々しくなつてそれが
爲めに喧嘩をする様な事に
もなります、それでお盆の
遣り取りはお断り申すと書
いて貼り出したものでござ
いませう』

甲『ウム然うか、イヤ俺は
町人を相手に喧嘩はいたさ
ぬ、さア飲め、俺は貴様
の肴を喰べるぞ、なんだ玉
子焼があるな酒飲みに似合
はずくだい物を喰べる奴』

な、しかし喰べてやるぞデ
ツと我慢して喰べて遣る』
○『我慢して喰べてくれず
とも宜うございます、オイ
姐さん勘定をしておくれ此
んな處には居られぬえ、此
上武士に喧嘩を賣られては



甲『御老體一献頂戴いたさ
う、これへ注いで頂くか』
と吸物碗の蓋を取つた老
人は迷惑ではあるが相手が
武士の事とて断る事も出来
ず
老『何卒召し上つてくださ
い』
甲『御馳走になるぞ、時に
老人貴公は長命だな、三浦
の大輔と同年だな本年百六
ツになるか』
老『イーエそんなにはなり
ません、六十七でございます
す』
甲『それでも此の膳の前の
札に百六つと記してあるぞ

大變だ、オイ姐さん早く勘
定してくんねえ』
此客は驚いて早々勘定を
して

○『旦那御免なさいまし』
と挨拶して二階を下りて
行く、後に此の武士はヒョ
ロ、立つて老人の飲んで
ゐる前でビタリと座り

云ひつゝ上田馬之助と緒
方新三郎の居る處に足許危
げに出て来たが、衝立と衝
立の間に入れて置いた上田
の刀の柄が出てゐたのにポ
ンとつまづき
甲『何んだこれはこんな處
へ腰の物を隠し置いては邪
魔だ』
とバツト蹴つた二之を見
て馬之助は不埒な奴と怒つ
たが相手は酔漢、こんな者
と争ひをするは愚かと其の
刀を引き寄せて手拭で柄を
拭ひ、背後に置いた、スル
ト此武家は上田に對ひ
甲『拙者はあれに居る朋友
と共に當家に參つて支度を
いたし居るものだが貴公方
を見て近付の爲に推參いた
した、失禮ながら一盞献じ
ます』
と隣に居つた客の猪口を
取り上げて上田に献じた、
取り上げられた客はびつく
りしてゐる、馬之助は大變
な奴が現はれたと思つたが
断ることも出来ない
馬『頂戴いたす』
甲『それは有難い、よく拙
者の盆をお受け下されたナ
處で貴公方はいづれの御藩
士だ、拙者は織田伊勢守の
家臣にて佐藤大學と申すあ
れに居る友人は一人は青山
庄司、それに前田勘之助と
申す、今日は非番故勤めの
憂さを晴らす爲に當家に參
つたが何うも我々共の酒の
相手をする様な人物はとん
とない、然るに貴公方を見
受けし故これ屈強の相手な
りと存じて參つた、さア大
きな物で頂戴いたす』

馬『イヤもう我々は十分頂
戴いたした、さすればこれ
にて御納盆と致す』
甲『何んだ盆はもう納める
と、それなら何故拙者の献
じた盆を受けた、今一つ重
ねたまへ、これ青山前田こ
れへ參れ、酒の相手を見付
けたぞ』
と云はれて連れの武士が
打揃つてこれへ来た。

平町二丁目

三井タシク

電話六八五番

一冊の代金で
御希望通りな
五冊の雑誌が
自由に讀める

川崎 回文庫
電六三〇番
申込次第(規則書進呈)

高久病院

院長 醫學士 高久 忠
副院長 新潟醫學士 赤羽 清
藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄

平町四丁目 電話五一三番

内科小兒科 外科花柳病科
耳鼻咽喉科 レントゲン科

五月武者人形 特價大賣出し!

毎度格別ナル御同情ニ預リ難有御禮申
上マス例年ノ通り御座敷職及布鯉御道
具類等一式豊富ニ取揃陳列致シマシタ
御得意本位主義ニテ特價ニ差上マス。御一覽ノ程
御待テ致シマス。

平町三丁目日本通り
落花生問屋
星叶號 加藤提灯店

五月武者人形 特價大賣出し!

セメント 磐城セメント株式會社
壁用材料 代理店 西村屋藥舗
コールタール
ペンキ塗料
板 ガラス

平町二丁目 電三

中村齒科醫院

醫學博士 渡部 義夫
小兒科 女 醫 渡部 さい子

平町田町大通リ(電話二七七番)
入院應需 渡部 外科

平町 鍛冶町 七